

多角的に事象を考え表現する能力の育成

—自ら学ぶ意欲を高め、考え抜く力を身に付けさせる教育の在り方—

宮崎県立延岡星雲高等学校
教諭 村上貴志

1 はじめに

本校は江戸時代、交通の要路であった大武湊の跡地に立地し、海や山などの豊かな自然に囲まれ、在籍生徒590名のほとんどが進学する普通科高校である。沿革では延岡東高校と延岡西高校を統合した新設校であり、創立10周年記念行事を終えたばかりのとても新鮮で躍動感のある学校でもある。

新聞を活用した授業は主に現代社会でおこなっており、時事問題に興味・関心を示す生徒が年々増加している様子がうかがえる。新聞を活用した授業を更に推進するため、平成27年度よりNIE実践指定校の認定をいただくことになった。

本県において高等学校でNIE実践指定校の認定をいただいている学校は本校のみである。そのためNIE活動に不安や緊張はあったが、認定の際におこなわれたオリエンテーションでNIEアドバイザーの先生方や宮崎日日新聞社の方々が「困った時にはご相談ください一緒に頑張りましょう」という心強いことばをかけていただいたおかげで実践に踏み切る勇気が湧いたように思える。

本校生徒の新聞購読の実態として、「夕刊デイリー」という地方紙を購読している家庭が圧倒的に多い。実際紙面を読んでも地域色が強くとても読みやすいが、その分グローバルな記事が全国紙と比べると若干弱いため、家庭で購読している「夕刊デイリー」と他紙を合わせて読ませながら、様々な事象に興味関心を抱かせ、考え抜く力を育成させることがNIE活動を取り入れた大きな理由である。

2 新聞を読ませる機会を与えるには

前述したように本校のほとんどの進路が進学希望である。そのためか大学入試問題にこそ大いに興味を示すが、時事問題についてはあまり意欲的でない生徒が多いように思える。実際には新聞を読もうという意欲はあるのだろうが、課題等の学習に多くの時間を費やしているため、とても新聞を読む体力が残っていないのが実態であるようである。その証拠に、授業の導入において、新聞記事を読ませたり、時事問題を話し合わせたりする時間が授業で一番盛り上がっているように感じる。

では、このような状況においてどのように新聞を読ませる機会を与えるか。まず一つ目は、NIE実践校になると、新聞6紙が一定期間無償で提供してもらえるという特典を活用した。廊下に新聞6紙を入れたBOXを設置したのである。すると、授業の合間や昼休みに新聞を読む生徒の数が増えてきた。新聞BOXに対する生徒の意見には以下のようなものがあつた。

- 大学への推薦入試受験を希望しているので、小論文作成にとっても役に立っている。
- 朝日新聞の「天声人語」などのコラムが大学入試に取り上げられることもあると聞いているので、時々書き写しをして勉強している。
- 授業で学習している内容が記事になっていることがあり、とても興味を持ちながら記事を読んだ。

このように、BOXに置いている新聞を読む生徒が着実に増えてきた。近年、推薦による大学入試を受験する生徒数が全国的に高くなってきているので、特に3年生にとっては、格好の教材になったと思う。

新聞を読ませる機会を与える二つ目の手段として、新聞を授業で活用し、身近なものとして捉えさせる必要があると感じた。本年度、新聞を活用した授業実践例を二つほど挙げてみたいと思う。

3 授業実践事例

(1) 1分間スピーチにより表現力を高めさせる

現代社会の授業導入の部分で、出席番号順に1分間スピーチをさせることにした。この取組みによって、社会的事象に関心を持たせるというねらいも兼ねている。

このスピーチには条件があって、

- 話す内容は、新聞に載っている記事のみ
- 必ず1分ジャスト
- 自分の感想や意見も加える



【1分間スピーチをしている生徒】

という三つの条件をクリアしなければならない。生徒からどのようなスピーチがされたかという「MARS」「道交法改正」「新幹線放火事件」など、新聞紙面で話題となった記事を発表する生徒が多かった。当然ではあるが全生徒が発表しなければならないため、次第に新聞を手取る生徒が増えてきたということは言うまでもないだろう。結果、新聞BOXにたむろする生徒が増え、時事問題に興味を持つ生徒が増えてきた感が増してきた。

まずは、新聞に触れる生徒を増やすという課題についてはクリア出来たように思える。

【1分間スピーチに関する生徒の感想】

- 今までなんとなくわかっていたことを、みんなの前で発表するには、よく知っておかないといけないことがわかり、新聞を熟読するようになった。
- 1分ちょうどで話さないといけないので、話をまとめることが難しかった。自分が知っている情報をまとめるという活動がとても勉強になった。
- 新聞を読めばわかることであっても、人前で発表することは恥ずかしかったが、とても良い体験になった。

生徒の感想はこのようなどとも肯定的な感想ばかりであった。また、単に新聞を読むだけでなく、事象について考えさせ表現させる学習内容として、1分間スピーチはとても効果があると言える。

(2) 四コマ漫画を活用し思考力を高めさせる

1分間スピーチにより、自分なりの考えを発表できるようになってきたが、果たして記事をしっかり読み切っているだろうか。という観点から、四コマ漫画を活用し、より思考力を育成することを目的とした授業をおこなった。

【学習の流れ】

- ① グループを編成させる。
- ② 四コマ漫画の3コマ目まで原画を見せ、4コマ目の吹き出しを空欄にする。その空欄に、どのようなセリフ（今回は絵）が入るのかを話し合わせる。
- ③ 班ごとに空欄に描かれている絵と、なぜその絵が入ったのかを発表させる。
- ④ 最後に実際の4コマ目を見せ、作者の意図について考えさせる。



1コマ目



2コマ目



3コマ目

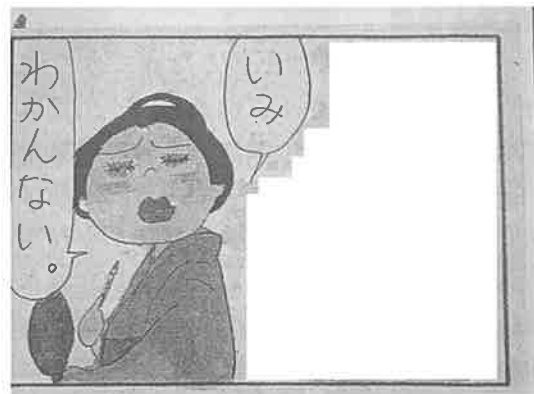
【問題として提示した4コマ漫画】

今回、4コマ目の空欄にどのような建築物が描かれているだろうか、という設問である。

ヒントとして、

- 時事問題としての四コマ漫画である。
- 贅沢ではないかという世論がある。
- 新聞に頻繁に掲載されている。
- 建築物である。

以上の4点をヒントとして提示し、グループで話し合わせた。



【グループで話し合わせた4コマ目】

グループ活動をさせる理由は、一人一人の知識を結集させより良い解答を導き出させることである。1分間スピーチが定着してきており、時事問題について精通している生徒も増えてきているので、お互いの知識を引き出し合う活動が出来ると判断したからである。

予想通り多くの意見が活発に飛び交い、とても活気ある授業になった。生徒が4コマ目に入るであろうと予想した絵の一部を紹介する。

- 東京ディズニーランド・・・景気が悪い中、入場料が高い(贅沢だ)から。
- 東京スカイツリー・・・東京タワーがあるのに、この建築物が必要なのか。

答えの建築物を導き出すために生徒同士の知識を生かし話し合い、問題解決をしようとする姿勢は評価できる。ここで、過去の新聞記事から、空欄に適する建築物を探すよう指導した。新聞BOXに入っている膨大な新聞を読ませ、グループで話し合わせる活動は生徒の思考や探究心を刺激し、考え抜く力がより高揚したように見受けられた。

新聞BOXの膨大なデータから、4年後に迫ったオリンピックの話題に気付き、4コマ目の絵は新国立競技場ではないかという結論に至った。正解の4コマ面の画像をみせると、大きな歓声が上がった。

では4コマ目に書かれている2520億円とは、どの程度の金額であるかを調べ始めた班が出てきた。過去のオリンピックメインスタジアム総工費はおよそ、北京が約500億円、アテネが約350億円、シドニーが約680億円ということで、かなりの破格であることにみな驚いていた。このことが、4コマ目のセリフに繋がるのだという意見も発表された。

では、4コマ漫画とは新聞にとってどのような位置づけなのかを話し合わせた。「より新聞に慕わせるため」「(新聞は文字が多いので)、目の疲れを癒すため」などの意見が発表されたが、「時代を風刺するものである」と説明した。この問いには答えはないが、生徒が意欲的に学習に取り組み、考え抜いてくれた一時間であった。

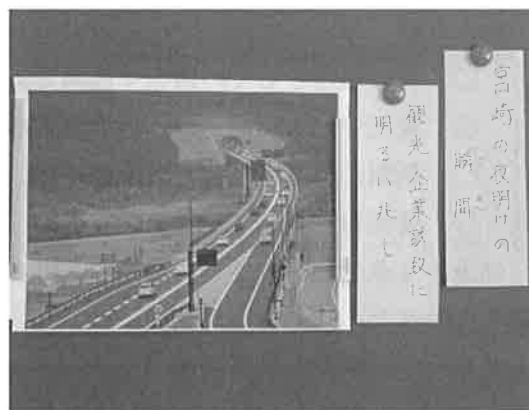


【解答の4コマ目】

4 成果と課題

一年間、NIE活動をおこなってきて成果が挙げたものが大きく二つある。一つ目はペア学習、グループ学習の際に、自分の意見を発表する生徒が増えてきたことである。以前は自信がないのか、または発表する経験が少なかったせいか、特定の生徒を中心に授業が展開されていた。NIEを続けていくにつて、多くの生徒が意見を発表し、とても活気のある授業が多くなった気がする。二つ目の成果として、生徒の集中力が高まってきたように思える。

今回発表した実践例以外にも多くの新聞を活用した授業をおこなっている。例えば写真に見出し文を作成させる授業では、画像のほんの細かい部分を生徒が見つけ出し、そこから文章を作り出す能力が高まった。生徒の知識が豊富になり、文章自体がとてもわかりやすい書き方になっている。他にも挙げきれないほどの成果があるが、これらのNIE活動が生徒の思考力、表現力をより高めてくれるものと確信できる。



【写真に主見出し 袖見出しを付ける授業】

課題として、生徒数に対して新聞部数が絶対的に不足しているため、どのようにして多くの生徒に新聞を読ませていくか、読ませ方を工夫する必要がある。幸い本校では、教室内で無線LANを活用したタブレットが活用できるため、インターネットを活用した電子版の新聞を活用することも可能である。しかし、読みとる力、考える力、想像する力、表現する力を育成させるためには、新聞紙による媒体が一番効果的ではないかと考える。